

■児童・生徒の学力の状況

- 学力テストの結果から中下位層の児童が多い。
- 自尊感情（自己肯定感）が育ってきている。
- 児童の読書量及びRSTの結果から、文章を読み取る力、語彙力に課題が見られる。読解力の不足により、学習の定着が難しいと思われる児童がいる。
- 自主的な学習を進める力が不足している。学力の個人差が大きくなりつつある。
- 特別な配慮を要する児童が増えている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 全ての教科における、「読み解く力」を身に付けさせるための授業革新。
- 板橋区授業スタンダード、及び板橋区授業スタンダードSの全教員による共通理解及び確実な実施。
- 主体的・対話的な授業の計画的な実施。
- ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。
- 特別な配慮を要する児童への、個に応じた指導の計画及び実施。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 児童に基礎的・基本的な学習内容が身に付くような「分かる」「できる」授業を実施していく。問題文を正しく把握し、自分なりの解答を導き出す力を身に付けられるようにする。そのために、文章を整理しながら読んだり、文章の根拠を明らかにしながら内容を理解したりすることをねらいとした「読み解く力」を高める授業を工夫していく。
- 全ての教科において、学習に望む姿勢（学習規律）、ノート指導の充実、「板橋区 授業スタンダード」及び「板橋区授業スタンダードS」の確実な実施に努める。
- 校内研究である「見方・考え方を働かせる力」を身に付けさせるための授業の成果を取り入れながら、問題解決型学習・探究型学習・協働学習を取り入れた学びを計画的に実施していく。
- 教育のICT化を推進し、タブレットPCや電子黒板、デジタル教材等を効果的に活用した授業の構築に努める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 生活科・総合的な学習の時間における 自己調整型・自己選択学習の推進
○板橋区授業スタンダードの学習の流れに沿った授業を定着させる。内容に応じて、学習課題・めあてを児童が設定する場面を設け、振り返ることによって次の学習に繋げていくことを意識する。また、単元の中で学習内容や進め方等を児童が選択できる場面を設定する。	○板橋区授業スタンダードに沿って、INPUT→THINK→OUTPUTを意識した授業を定着させる。教科書等を読み取る場面では、基礎的読解力の6つの分類のうち、どの分類に該当するのかを明確にする。また、集団解決やまとめ・振り返りでOUTPUTする場面を設定する。	○生活科・総合的な学習の時間に取り組む内容と関連のある各教科等の学習内容を把握し、各教科等と総合的な学習の時間をつながりのあるものにする。授業においては探究的な学習のプロセスを大切にし、学びたいこと、学び方を児童が自己選択、自己決定できるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○小中の9年間で連続した学びとするために、板橋区授業スタンダードの学習の流れを定着させる。その中で「読み解く力」の育成を中心に置き、基礎的読解力の6つの分類を意識して、＜課題を理解・把握する（INPUT）→考察する（THINK）→まとめる・振り返る（OUTPUT）＞を繰り返し、主体的・対話的で深い学びを目指していく。	○各学年の単元配列表から、総合的な学習の時間に学習する単元と、その単元に関連する各教科等の単元を整理し、各教科等で学習した内容を総合的な学習の時間につなげていくことを意識した教科等横断的なカリキュラムにしていく。また、各教科等で育成していく「読み解く力」と、「話し方名人」「聞き方名人」の活動で得た力も総合的な学習の時間に活用していく。	○ICT機器の有用性を全職員で共通理解し、活用の場面や方法を互いに情報交換して、ICT機器の効果的な活用を取り入れた授業を展開できる指導力の向上に努める。 ○Chromebookを、調べ学習や習熟の場面で活用するとともに、Googleの機能を利用して、学び合いや協働的な学習の場面で活用していく。 ○生活科・総合的な学習の時間に、2学年合同で自己調整型・自己選択学習で学ぶ、「I LOVE 高島平」の時間を設定する。